

(5) 自然環境の保全対策について

想定課題

那須地域には豊かな自然環境があり、美しい自然景観や貴重な動植物の生息環境となっているが、この自然環境をどのように保全すべきか。

対応方向

自然には、那須山麓の原生林や高山植物のようにそのまま守るべき自然と、農山村地帯の雑木林、アカマツ林、小川といったように、人間の営みの中で作りあげてきた自然があります。那須野ヶ原の自然は、那須疏水をはじめとする開拓事業によって原野に水と緑の環境をつくりあげた代表的な事例であり、農林業によって保全されてきた自然です。

国会等の移転に伴う新しい都市は、21世紀の日本の顔にふさわしい自然環境と調和した都市とすべきであり、このような自然そのものの持つ多様性を踏まえた上で、環境への影響に配慮した最善の方策を検討していく必要があります。

このため、都市づくりに当たっては整備方針を定める計画の早期段階から、動植物の生息分布状況を含めた自然環境の調査を実施し、その結果を踏まえた上で、森林や生態系の保全、農山村の維持など自然環境に配慮した土地利用計画を策定することが重要であり、その際、適切な保全区域の設定や公有地化などの方策を検討することも必要と思われます。

また、新たな都市づくりの中では、長期的な視点から、新たな自然の創出も検討するべきと考えます。

国会等移転審議会答申（平成11年12月）

『首都機能の移転先となる新都市のあり方 環境への配慮』

「人間は自然の一部である」。新都市の整備に当たっては、この基本理念の下に、様々な知識と技術を積極的に導入して、現状の良好な環境の保全に十分な配慮を払うとともに、新たな自然的環境を積極的に創り出すことにより、人と自然が近接し、環境と共生する先導的な都市として、世界の範となるよう努めるべきである。また、新都市は、省エネルギー、リサイクル等を徹底し、排出される環境負荷を最小化するとともに、他の地域における環境負荷の低減にも貢献し、さらには全地球的環境問題に対しても積極的に寄与していくことが求められる。